



全身大やけどの大仏さん(けき8時、京都市東山区の方広寺で)

# 大仏さん、無残

## 焼け落ちた顔

### 方広寺の火事 内部に火の気なし

京都市東山区大相大踏正面上ル、茶屋町の方広寺。木下寂俊住職(五七)で、二十七日深夜大仏殿を全焼した火事で、京都府警松原署と京都市消防局は二十八日午前十時すぎから、大仏殿裏入口を中心に本格的な検証を始めた。

この結果、大仏殿正面付近が一番よく燃えていることがわかった。が、出火元と断定はできず、大仏殿には火の気がないことから、不審火の疑いもあるとして、さらに詳しく調べている。

焼けた大仏殿は戦後改築したもので、そのなかには天保十四年につくられた大仏のほか、仏像など計六体と西国三十三万所の札所の綱首像三十体などが収められていた。火の回りが早かったため、大仏をはじめ、仏像のほとんどが焼失した。

「哀の大仏さんは……」のわらべうたで知られた大仏は、一夜明けるとまっ黒に焼けただれた無残な姿になっていた。胸から上だけ

の木像の姿は、面ほお、あごがすっきり焼け落ち、鼻と目の一部、頭の上を残すだけ。頭を支える木の骨組みが炭のようになってけい臭いにおいを一面にただよわせていた。